

代表あいさつ



時田良枝



こんにちは！
一般社団法人
Polyphony 代表の
時田良枝です。
私たちが法人
として行ってい
る事業は、障害者
サービスの1事

業である生活訓練事業所「リカバリーカレッジ・ポリ
フォニー」ただ1つです。2018年9月にスタートし、今
年おかげさまで5年目を迎えました。

法人の理念は「にぎやか・いろいろ」。生きづらさを感じ
るその方自身の人生の道が孤立した何もない道
ではなく「にぎやか」な道に。そのために「いろいろ」な

居場所や役割、活動がある地域づくりを。と、この理念
をかかげ、広く地域の皆さまとつながりながら活動
を行っています。生涯に5人に1人は罹患するといわれ
る精神障害は決して関係ない誰かのものではなく自分
たち自身と地続きの問題であると考えています。

2001年にWHOで採択された国際生活機能分類（ICF）は、それ以前に障害の分類とされていたものを、健康や生活といった生きることの全体像としてとらえなおしたものです。ICFにおいて、障害は個人因子と環境因子との相互作用によるものとされています。各個人にある特性と社会の側の環境、両者のあいだに「障害」は生まれます。社会参加、という時その「社会」そのものについてどう考えアプローチしていくか、それこそが大切であると考えています。

これまでリカバリーカレッジ・ポリフォニーでは、こうした「社会」の側へのアプローチのひとつとして、働くことを選択肢を広げる活動として、いわゆる「超短時間雇用」という形で、週1時間から最低賃金を保証され障害をオープンにした就労の場を地域に広げる活動に取り組んでまいりました。この動きは市内企業から現在近隣市での取り組みへとひろがり、潜在的におおきな必要性のあるものであったことを実感しています。

その方自身が、ご自身の意思決定の元安心して選択できる生き方働き方の選択肢を広げていくこと、なにより大切なことと考えます。

精神障害とは、誰もが人生の中で出会うことのある心の不調。その中でも参加できる選択肢がたくさんある社会を。それは、誰にとっても生きやすい社会でもあると思うのです。

地域づくりとしての福祉事業という視点を大切にしながら、これからもこの地域のたくさんの方とつながり活動してまいりたいと思います。

楽しさとともに「にぎやか・いろいろ」を地域に広げていきたいです。皆さまぜひ一緒に！

職員紹介

スタッフ ちーちゃん

アート部、オープンカレッジのお知らせパンフレット制作補佐、販売委託品の制作、染めの時間、3D×アート部のすぐろく企画など「つくる系のこと」を担当しています。アート部では、参加者それぞれがそのときしたいことをしています。とりあえずなにかをやってみて、楽しくなかったらやめる、楽しいと思えたらラッキー！ そんなゆるいムードが大事ななあと思っています。12月にはポリフォニーにて作品展を企画中です！ ぜひお越しください！



いう、大して役立たないコトといえます。したがって参加者は聞くだけでもよし、「あーわかる！」と語りだしてもよい、ゆるやかなリラックス時間です。本なんか読まない人も参加してよいプログラムです。

本は、書いた人、企画した人、作った人などの個性の産物で、その本の読み方（推し！やNG？など）も人によって違います。本を読んで、こんな世界もあるのか？とか、スゴイ研究人生！とか、あるいは上手く表現できなかったことに言葉を与えられた感激など、私がみつけた面白さをお伝えしています。

さて、あなたは、今生きている場所や自分の常識に縛られてはいませんか？ 世界も人間も多彩で、正解は一つではないと、私は思います。生きる問題は、もやもやとしたわからなさに付き合いながら、自分なりに探っていくものなのかもしれません。その探究に、読書会で聞く参加者の言葉や本がヒントになれば、それもいいと思います。

ポリフォニーの事業には、直接、身体や生活に役立つコト、仕事に結びつくコトもありますが、この読書会のカテゴリは「個性を知るプログラム」。つまり、わたしの岡野の個性・感性や思考のクセを、へえ?!と知ると

卒業生
コーナール

私が思うに
ポリフォニーの
最大のよさは
ローカルネットワークです
代表の時田さんの人脈や
付き合いのある団体・個人は
ポリフォニーの強みだと思います

©Mr=K



Mr=K

抜群の画力を生かして 2021 年東久留米市商工会ポスターを手がけ、3Dモデリング部の立体デザイン、各種印刷物イラストカットの制作に携わる。2022 年卒業。

Ishiyama

動植物の生態系から日本史まで、幅広く興味を持つ。東久留米市の落合川流域の生態系について独自研究しており、今回のコラムでも触れている。2021 年卒業。